

山行番 NO. 1748-1
日時 2017. 07. 31 (月) ~ 08. 01 (火) 晴れ
山域 北海道・夕張岳 (1668m)
コース 31日 = 三島駅 7:07 - 東京着 8:00 - 東京発 8:20 - 新函館北斗駅着 12:22 - 室蘭本線・北斗駅発 12:34 - 南千歳駅着 15:30 - 南千歳レンタカー発 16:00 - 道東自動車道 - 夕張IC - 夕張市・運動公園第二球技場 (泊)
01日 = 林道ゲート 4:59 - 夕張ヒュッテ 7:06 - 冷水コース - 馬の背分岐 8:28 - 望岳台 9:10 - 前岳湿原木道 9:47 - ガマ岩 - 吹き通し (ユウバリソウ) 10:39 - 金山コース分岐 10:41 - 夕張岳 11:00 ~ 29 - 冷水コース分岐 14:09 - ゲート 16:17 - 深川留萌自動車道・秩父別PA (泊)
標高差 上り = 林道ゲート約340m ~ 夕張岳1668m = 約1328m
下り =
所要時間 上り = 約5時間、下り = 約4時間
参加者 GT, KH

延々と続く、ヒグマの糞

久しぶりに北海道遠征だった。最初に行ったのは、1975年8月9日~21日だった。当時は、青函連絡船で北海道に渡り、札幌駅前路上で路上宿泊した。そのころは、いわゆる「カニ族」と呼ばれる、若者の旅行者が多く、駅前には溢れかえっていた。

「カニ族」とは、・・・カニ族 (かにぞく) とは、横長の大型リュックサックを負った旅装、およびそのような出で立ちの者たちを指した日本での俗称であり、世界的にはバックパッカーと呼ばれる・・・(ネット)

その山行で、利尻岳・大雪山・トムラウシ岳・美瑛岳・十勝岳・富良野岳に上った。その後、1990年、羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳・礼文岳に上った。今回は、それ以来の北海道で、幌尻岳・後方羊蹄山・ほかを上るつもりだった。

結果的には、夕張岳・暑寒別岳・後方羊蹄山・幌尻岳 (チロロコース = ニノ沢・標高1000mまで) だった。天気は一週間晴れ。ヒグマは、夕張岳の登山道に結構新しいものが17山 (個というより、「山」がふさわしい) が一番で、ほかは殆どなかった。

クマのほかに問題はアブ。メクラアブと呼ばれるもので、大きくはないが、刺されると2~3日、モーレツに痒い。厚手のズボンでないと、上からも食いつく。蚊はいなかった。昼間の気温は高いが、湿度が低いのでカラッとしている。

花は夏から秋花が良かった。本来、夕張岳 = ユウバリソウ (ウルップソウの白いの)、暑寒別岳 = マシケゲンゲ (オヤマノエンドウの仲間) を見たかったが、既に時期が遅く、双方とも種状態だった。見るなら、6月下旬から7月上旬。ほか、食べるものは美味しいものが多かった。ただ、刺身は良くない。テント場は、流石は北海道。一張 = 1000以内で清々とした所だった。温泉は、よりどりみどりである。

今回は、全てテント泊で荷物が多かったので、あえて新幹線で行った。結果は正解だった。新幹線は、移動距離が少なく、重荷は楽だった。短期間なら、ヒコーキがイイだろう。(GT)



新幹線・北斗

いよいよ北海道だ。道は真っ直ぐ続き、行き交う車も少ない。やっぱり北海道だ～。と言いたい所だがどうにも実感がわかない。新幹線の地続きで来たからなのだろうか。それとも本州と変わらず暑いせいか。車はクーラーを入れっ放しである。

さてさて、第一日目の出発である。夕張ヒュッテの問い合わせをした際、「昨年夏の台風被害で林道が何箇所か崩れた為、9.5K手前から通行止めになっているので、ヒュッテまでは約2時間かかります。今からでは無理だと思いますが・・・」との情報だった。それはないよ～。本来なら林道終点から20分でヒュッテに着く予定なのに。雨は降っているし、暗くなってきたし、金谷ダムから上ろうか、それとも明日の暑寒別岳と逆にしようか、車で行きつ戻りつ思案に思案を重ねたが、最終的に2時間歩いても計画通りに上ろうという事に決め、夕張市・運動公園第二球技場にテン泊。

翌日、テン泊地から車を走らせゲート前に駐車。暗闇の中ヘッドランプで出発。「熊に注意」の看板に鈴を忘れた私にCLの鶴の一声「・・・」。「すみません。熊が出たら私の身体を先に食べて貰いますから」と声を落としてしょんぼり返答。道は広く歩き易い。タッタカ、タッタカ競歩で歩く。途中で出会った鹿が「こんな早くからご苦労なこってす」みたいな褪めた目で見ていた。

両側には傘より大きい「ラワンフキ」が我も我もと押合い押し合いしている。緩やかな林道は2時間丁度で夕張ヒュッテ着。鈴が欲しかったが、勿論、ヒュッテでは販売ナシ。



ラワンフキ

林道は通行できない訳ではない。人命に関わる有事が起きたら、どうするか問題がある。7月6日、ガマ岩付近でクマ目撃情報があったと教えてくれた。管理人は主にヒュッテの大工仕事で入っていると言った。人の良さそうなオジサンがお茶を出し迎えてくれた。管理人も林道を歩くそう。営林署はなかなか厳しい。一スはここから、途中まで2コースあるが、冷水コースを勧められた。こちらは藪が少なく上り易いとのこと。



夕張ヒュッテ



管理人さん

馬の背コースは笹が濃く歩きづらいとの情報を貰い冷水コースを辿る。登山道には多少の藪はあったが1時間チョットで馬の背との分岐。頂上まで4.5Kの表示だ。この辺りから熊の糞が道の真ん中に続出する。標高1200m付近から悠々たるダケカンバの巨木が林立。足元にはシラネアオイの群落だ。残念ながら咲き終わりで種をつけていたが、時期の頃はさぞや見事であろう。チラチラとエゾレイジンソウも見受けた。トリカブトに似ていて最初は黄色いトリカブトと勘違いした。

1300mから段差のきつい急登にかわり、岩や木の根を掴んで這い上がる。望岳台を過ぎると大きい岩山の前岳を巻きながらコルに向かう。丈のある草木が道を塞ぎ、うっかり笹の根に乗ると足を滑らせ斜面に落ちそう。燦燦と陽ざしが降り注ぎ、汗がポタポタ額から落ちる。両手で草木を掻き分け、足元に気をつけながらトラバース。うっかりすると熊の糞を踏みそう。しかしまあ、熊は何故道の真ん中でするのか不思議である。「やっぱり邪魔なものがないから腰を落としやすい？」と私が言ったら、CLは「熊は立ったま

まだ」と言った。「ふ～ん。それじゃ何処でも同じなのにねえ。」疲れが出た身体に鞭打ちながら、こんな会話でもしていないと熊に出会いそうで恐い。それにしても一回でこんなに大量に出るなんて何と羨ましいことか！私の実感である。



比較的新しい熊の糞



正面が夕張岳



ユウバリソウ

大きなガマ岩の下を通過して、前岳湿原木道になると景色が一変した。まだまだ頂上は遠くに見えるが、視界は開け花々の種類が多く眼を楽しませてくれるようになった。ウメバチソウ、ウサギギク、ナデシコ、フウロ、アズマキク。歓声をあげながら更に木道を辿って緩やかに登る。片面ガレ場のような吹き通しに出ると、「あつた〜！ユウバリソウ」が。ウルップソウによく似ていると言っていたので直ぐにユウバリソウだとわかった。既に咲き終わっていたが本当にウルップソウと見間違えるほどである。これを見たくてこの山に来たが残念！咲く頃にもう一度来たいものである。傍らにはイワブクロとユキバヒゴダイの群落。ユウバリソウを見つけたので気分は上々。もう一山上がり始めると今度は可憐な花が咲き競うお花畑だ。振り返ると、前岳湿原から伸び伸びとした広大な景観が広がっていた。この地形は、専門的には「ノッカー地形」と呼ぶそうだ。

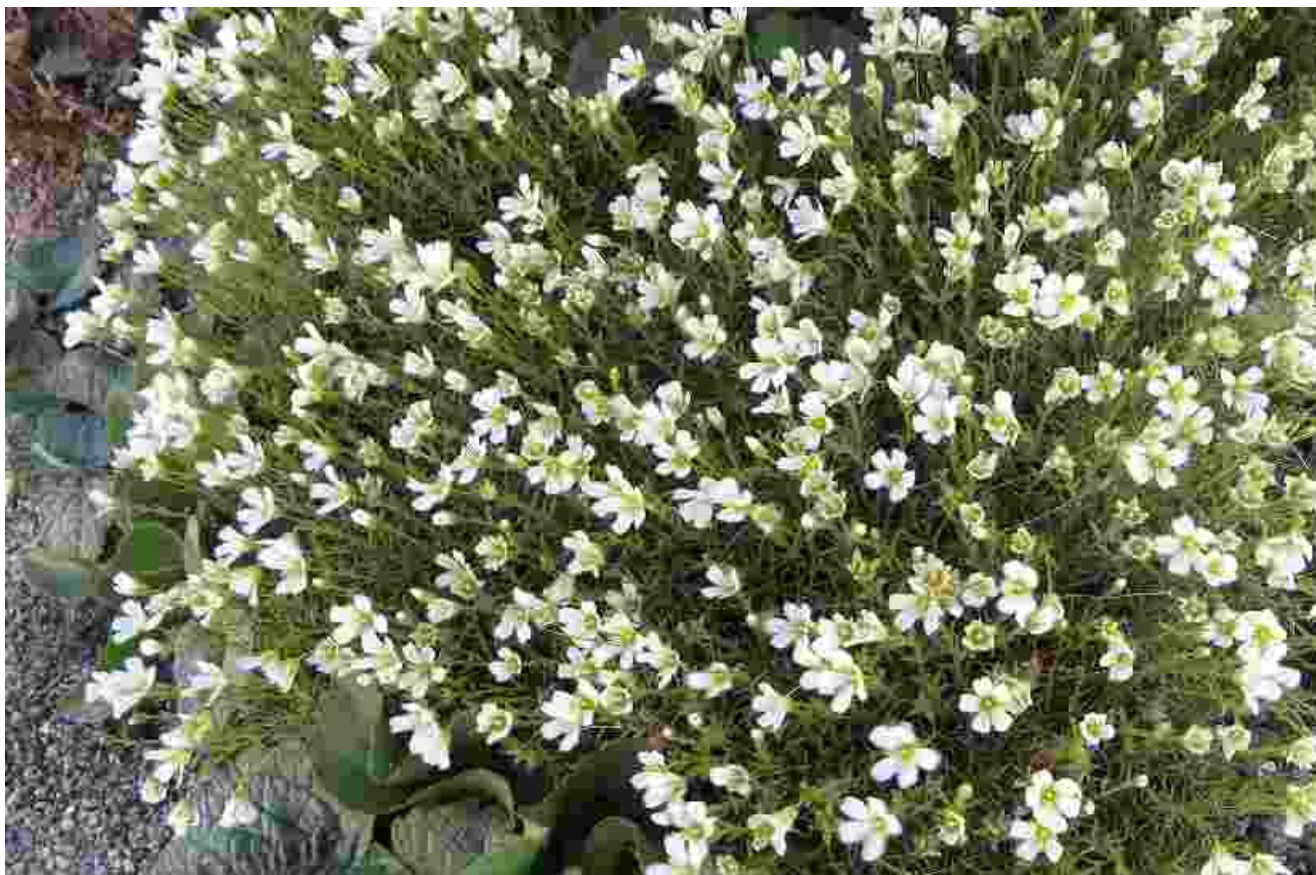
やっぱり山の上まで来ないと望めない展望だ。身体の疲れが一瞬に吹き飛ぶ。頂上直下で金山コースに合流した。頂上は、急峻なピークで東面からは上れない。途中でイワブクロが咲いていた。ひと上りで、鳥居を拝んで頂上着。ガスが出始め肌寒くなってきた。上着を一枚着こんで鳥居まで下りお昼とする。花三昧の山に大満足し下山はもう一度、花を確認しながら下る。前岳湿原下でラジオの音が聞こえ、オジサンが一人上って来た。やっぱり2時間、林道を頑張ったようだ。連れの奥さん(?)はリタイヤして下山したと単独で上って来た。頂上までの時間を聞いた。1.5Hと答えた。



シナノキンバイ



ユキバヒゴタイ



エゾノタカネツメクサ



夏山・夏空・夏雲・夏風・夏花



夕張岳頂上



ノッカー地形

ヒュッテ近くでお連れさんと会ったが、随分と歩きづらそうだった。又、大量のクマの糞は頂上まで合計17ヶ所にも及ぶ。遭遇しなくて良かった。林道は長い。来るときは2時間でも帰りは2時間と15分だった。長い行程に足がやっぱり疲れていた。

パラパラとしていた雨が車に乗ると同時に本降りになった。大量の汗をかいた一日だったが、途中の温泉でサッパリとした後、次の予定地、暑寒別岳の登山口に向かい、深川留萌自動車道・秩父別PAでテン泊。林道往復4H以上で、暑寒荘に泊まれず残念だった。(KH)



キタキツネ



イワブクロ



ガマ岩



吹き通し（正面が夕張岳）



エゾシロチョウ

観察した主な花

- | | | |
|----------------|---------------|---------------------|
| 1. エゾアジサイ | 2. ミソカワソウ（多い） | 3. エゾホソバトリカブト |
| 4. シナノキンバイ | 5. エゾウサギギク | 6. イブキトラノオ |
| 7. ナガバノキタアザミ | 8. ヒオウギアヤメ | 9. シオガマギク |
| 10. タカネニガナ | 11. ミヤマリンドウ | 12. エゾオヤマリンドウ |
| 13. チシマフウロ | 14. ハンゴンソウ | 15. シロウマアサツキ（やたら多い） |
| 16. ハイオトギリ（多い） | 17. エゾウサギギク | 18. ミヤマリンドウ |
| 19. ミヤマアケボノソウ | 20. チシマアザミ | 21. ウメバチソウ |
| 22. タカネナデシコ | 23. サマニヨモギ | 24. ユキバヒゴタイ |
| 25. エゾタカネツメクサ | 26. ユウバリソウ | 27. ヨツバヒヨドリ |
| 28. エゾニュウ | 29. イワブクロ | |

